

2019年11月12日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR部**2020年3月期第2四半期決算説明会 発表要旨**
(2019年11月6日開催)**I. 決算概要****1. ハイライト**

- 手持ち案件を着実に遂行、本業ベースの利益を確保。完成工事高 1,749 億円(通期予想比進捗率約 45%)。営業利益 141 億円。純利益 48 億円(通期予想比進捗率約 80%)。
- 営業利益の通期予想を 120 億円から 190 億円に修正(11月1日発表済み)。経常利益以下の利益は通期予想を据え置き。円高により外貨建債権にかかる為替差損が発生し、営業外損益△72 億円を計上していること、および第 3 四半期以降は案件進捗に伴う損益変動や経営環境の変化等を保守的に見積っていることによる。

2. 業績概要

- 受注高 799 億円。第 4 四半期に大型案件受注を目指して準備中。受注残高 9,045 億円。
- 完成工事高、利益項目は「1.ハイライト」の通り。

3. 受注高**4. 受注残高**

(説明割愛)

5. 損益計算書項目

- 完成工事総利益 220 億円、完成工事総利益率 12.6%。キャメロン LNG、タンゲーLNG での契約条件改定等により、通期予想の 7.4%を上回る。完成工事総利益の通期予想は期首の 290 億円から 360 億円に上方修正。修正後通期予想 360 億円に対して、第 2 四半期実績 220 億円は約 60%の進捗率。
- 販売費及び一般管理費 80 億円。通期予想の 50%弱。前年同期実績に比べ△9 億円、約 10%圧縮。
- 営業外損益△72 億円。主な理由は円高による外貨建債権にかかる為替差損。第 2 四半期に、米国の現地子会社向け貸出債権の資本化や為替予約による部分ヘッジを進め、第 3 四

半期以降の為替差損の発生は相応に抑制出来ている。

6. 利益要因別分析

- 完成工事総利益 220 億円の内訳は、第 1 四半期 130 億円(エネルギー:107 億円、地球環境:23 億円)、第 2 四半期 90 億円(エネルギー:74 億円、地球環境:16 億円)。
- 販管費は第 1 四半期、第 2 四半期とも 40 億円。前年同期実績比各々△2 億円、△7 億円。
- 営業外・特別損益は主に為替差損。法人税等を差し引き後、純利益は第 1 四半期 23 億円、第 2 四半期 25 億円、累計で 48 億円。

7. 完成工事高

(説明割愛)

8. バランスシート

- 本年 5 月 9 日に発表した、三菱商事、三菱 UFJ 銀行のファイナンスパッケージは、三菱商事の第三者割当増資 700 億円、融資枠 900 億円および三菱 UFJ 銀行の劣後ローン 200 億円の合計で 1,800 億円。
- 「自己資本」は本年 3 月末△601 億円から 9 月末 190 億円、791 億円増加。三菱商事への第三者割当増資 700 億円が 7 月に実行されたことが主な理由。
- 「長期借入金」(固定負債)は本年 3 月末 159 億円から 9 月末 358 億円、199 億円増加。三菱 UFJ 銀行の劣後ローン 200 億円の実行による。
- 三菱商事の融資枠 900 億円は 9 月末現在未使用で、将来の資金繰りの備えとして確保。

9. 通期業績予想

- 上記の通り、完成工事総利益及び営業利益を上方修正。

II. 再生計画 6 か月間の進捗報告

1. 再生計画サマリー

- 現在、以下の再生計画の大きな目標感に沿って各施策を順調に展開中。
- 再生に向けた岩盤作り:重点施策はリスク管理体制の高度化、EPC 遂行管理力の進化、人材の高度化・拡充、の 3 点。
- 5 年後の絵姿(定量目標)は、年間純利益 100 億円から 200 億円を安定的に計上出来る収

益体質に変革すること、および自己資本比率を20%以上に回復。

- 長期ビジョン: エネルギーと地球環境の未来を創るエンジニアリングカンパニーを目指す。

2. 財務基盤の強化

- 三菱商事の第三者割当増資700億円を実行、また、通期予想を上回る完成工事総利益の積み上げ、さらに販売管理費の削減等により、債務超過を解消、自己資本は190億円に回復。
- 今後、手持ち案件の確実な遂行を通じて、自己資本を着実に積み上げ、再生計画の目標である自己資本比率20%以上に回復の早期実現を目指す。

3. EPC 遂行管理力の進化

- 「CCMO(Chief Construction Management Officer)」を任命、社内各部署に散らばる責任と権限を一元化し、推進体制を強化。以下の取り組みを推進中。
- 「Chiyoda AWP」: AWP(Advanced Work Packaging)は米国発の新しい建設工事管理手法で、当社は独自の知見を融合させ、設計、調達からプラントの完成、引き渡しまでを計画、管理するChiyoda AWPを開発。
- 工事IoT: RFID(Radio Frequency Identifier)を活用した資材管理の効率化。ビーコンを活用した労務・安全管理の向上。
- 「Target 20」: 全社デジタル化を推進。EPC・管理部門の業務効率の20%向上を目指す。

4. デジタルトランスフォーメーション

- 本年7月に「デジタルトランスフォーメーション本部」を新設。ビジョンは、デジタル技術をベースとした再生計画の遂行と、当社デジタルトランスフォーメーションの一層の推進。社内のデジタル化推進、デジタルを使った外への新規事業を進めている。

5. エンジニアリングの「新しい価値」への挑戦

- 当社が持つエンジニアリングの価値を再定義し、当社の事業ポートフォリオを変革していく組織として、本年10月に「フロンティアビジネス本部」を新設。ビジョンは、環境・エネルギー、社会・事業継承問題、ライフサイエンスの3つの分野における未解決課題を解決すること。

6. 既存案件の遂行状況

- フリーポートLNG: 進捗率(以下、いずれも9月末現在)は、第1系列・第2系列: 約99%、第3系列: 約96%。第1系列は既に8月生産開始、9月出荷開始。第2系列: 生産開始は

2019 年第 4 四半期予定、第 3 系列:生産開始は 2020 年第 1 四半期予定。

- キャメロン LNG: 進捗率は 3 系列全体で約 96%。第 1 系列:商業運転開始。第 2 系列:生産開始は 2020 年第 1 四半期予定、第 3 系列:生産開始は 2020 年第 2 四半期予定。
- タンゲーLNG: 進捗率:約 65%。予定納期:2021 年第 3 四半期。
- テキサス・エチレン: 進捗率:約 40%。予定納期:2021 年第 4 四半期。モジュール工法を採用、米国での現地工事を最小限化。中国のヤードでモジュールを製作中。
- ゴールデンパス LNG: 進捗率:約 4%。設計業務を順調に遂行中。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。